

令和6年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告関係様式

課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために令和6年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	現状の数値	本年度の目標値	実施の本年度	アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等）
①学校運営上の課題	社会に開かれた教育課程への対応	小中一貫教育の柱の一つとしてふるさと教育を掲げており、コーディネーターを配置し、9年間のカリキュラム構築を進めている。	コーディネーターがいなくても本取組を継続できるような仕組みづくりをを目指す（学校運営協議会の活性化等） 地域人材（ひと、もの、こと等）の新規発見	学校運営協議会の委員が学校の悩み等に対して、当事者意識を持って取り組む事例が増える。	学校運営協議会から始まる地域と連携した授業数	2	5	3	各中学校での検定業務に関すること、長期休業中の作品募集に関すること、夏季休暇の延長を受けての学習会に関することなど、ニーズや困り感に合わせた活動を展開できた。来年度も学校、地域が連携、協働し、小さな困りごとを解決できるような場を設けていく。
③学校と家庭の課題	放課後等における多様な体験活動	放課後児童クラブと放課後子ども教室の両事業を手広く展開し、多種多様な学びの場になるよう取り組んでいる。	似ている活動内容が増えてきているため、それぞれの果たすべき役割を明確化し、両事業の強みを生かした事業運営に向けたロードマップ、ビジョン形成を行う。	放課後の時間に子どもたちの「やりたい！」と思う活動を応援できる機会を創出し、自分で考え、選択した活動が増える。	定期的に「自分たちで活動内容を考え、実践する」プログラム数	3	12	12	毎月のプログラムの企画、検討に関しては、子どもたちの「やりたい」「やってみたい」を聞きとって、形にすることができた。今後のプログラム構成についても、児童の声に耳を傾け、子どもの主体性を育む機会を創出できた。来年度以降も継続的に実施していく。